

戒忍辱の意味をハキ違へたのであらう厭でも我慢するといふのでは本當に戒を持つたものではない。内心に苦といふものがあつては得道は出来ない。同時に心的衛生にも叶はない。腹が空いてもロモイけれど我慢する頭をハラレても我慢する妻が衰通しても我慢する工賃が貰へないでも我慢するウエ死しても我慢する。堪忍するが堪忍といつて年中苦しい腹をかへて青い顔をして行つたら腹の中に不平のカタマが出来る譯である。

陶客の道歌に「堪忍の和合はほんの上直し眞の和合は打明す腹」といふことがある。

昔から堪忍といふ事を道徳修養の一つに世間では思つてゐるが是は餘り感心した修養法ではあるまいと思ふ。殊に現代適用ひられ堪忍なる語は強者の弱者に對する教へであつて弱者の不滿に對して常に此筆法を以て事勿れをせしめたものである。強者は一向に堪忍する處無く弱者にのみ堪忍しろと教へられて來たのである。近代の勞働爭議に際しても是を強要するものがある。

従來の道徳といふものには此種のものが多い。據らしむ可し知らしむ可からず。等も此種の教に近いものがある。大木の影はよれ。とか。長いものは老かれろ。とか。かいつて個性を捨て、かいつた等の生氣地無き思想に例へて來たものがある。茲に私は各人個性の發揚を期せねばならぬ事を力説して置く。

「稼ぐに追付く貧乏なし」古人は稼ぐに追付く貧乏なしといつてウマクオケラ揚げて牛の如く馬の如く追ひ使つたものである。それは原始時代は随分稼いで物質を獲得する事が出来たであらう。然し現代では此格が通用しなくなつた稼いで稼いで無産者は猶且貧乏から脱する事が出来ない生産過剰だといふので貨餘は底下して來る貿易不振だといふて工賃の値下を力説して來る稼げば稼げば程（正比例に）賃金が低下する。然るに日用生活必需品は一向に下らない稼ぐべき道を断たれた失業者と雖も生活せすには居られない。生活必需品は是等の問題を外にして更に遠慮なく下らぬ、殊に家賃の如きは今猶グン／＼上つてゐる。近來家主の威光と來たら大したもので其横暴さは目もあてられぬ状態である。戸別税が家屋税になつたといふては上げ水道料が家主持ちになつたといふては上げ、所得税が高率になつたといふてはウソと上げ

暴風雨の修繕だといつて宛一敷難よるも上げられる、其程度の上りやうが實に甚しい、眞實に家主の負擔が加はつたに比較して當に三倍五倍の上りやうだから堪らない。

政友會御自慢の所得税法改正も（社會政策の意味で改正したといふ）直に轉嫁されて其負擔者は借家人である。怒した條の力持をして苦しみながら（是を負担して居ながら）戸別税が家屋税になつたので市町村會議員の選舉權は奪り上げられてしまつた。是では堪らぬと飛立つ程に思つてもコツ／＼収入を得て居る間に物價はお先へ失敬して上つて行く／＼して家屋建設の餘裕が出来たらう。

富者は益々富み貧者は愈々苦しむ、借家法、借地法、住宅組合法が制定されたが是でドレダケ無産者に幸福を與へる事が出来るであらうか（殆んど實際は問題にならないが）

無識徒食の有産階級は勃然起つて産業界に乗り出し政府當局は内に在つては無産者の向上指導に力め外に向つては殖民政策に今一段の力を致すべきである北海道開發とか滿鮮開拓とかいふ問題に就ては茲幾段の努力を要すべきものがある。生活の保證を與へると同時に將來に對する確定的希望を與ふべきことにある猶國民教育に關して改善を要すべき切實な問題もある（是は無産者向上に關し多大の關係を有するものがある）別の場合に詳述する。兎に角此際思想問題取締だなんて表面の事のみ汲々させず生存の安定を圖るべく積極的方策に出でん事を望むものである。

「衣食足つて禮節を知る」衣食が足つたら禮節を知るといつて無産者に向つては禮節もヘチマも知つたもので無いと勝手にキメ込んで人間並の取扱をしなかつた。是に對して

「腹の皮が張れば眼の皮がたるむ」といふ事も昔からの通り言葉で皮肉ではないか衣食が足つたら活動力が鈍つて來る。此故に衣食の豐滿な人は得てして眠くなり易い眞に活動力のあるは無産階級の人であるといふ事が眞個であらう飽食飽衣は禁物だといふ氣分を味つて無産者の氣焔を擡げる事は面白事だらうと思つて特に此一言をしたのである。